

# グリーンインフラの推進について

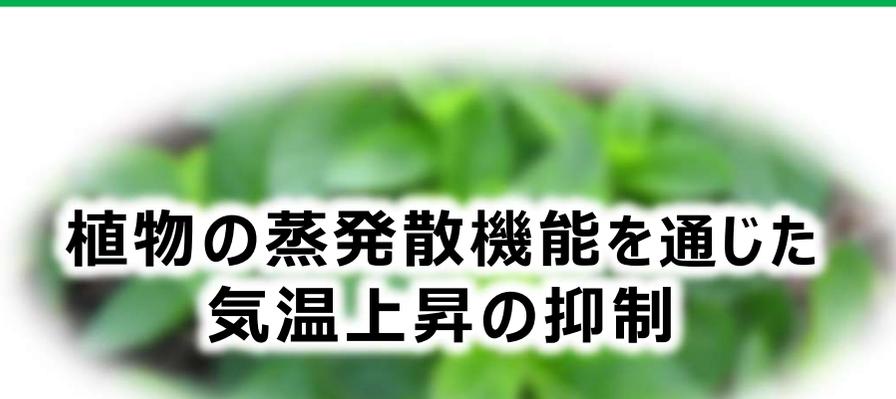
---

社会資本整備審議会・交通政策審議会技術分科会 技術部会  
国土交通技術行政の基本政策懇談会（第14回）

2020年10月30日  
国土交通省 総合政策局

グリーンインフラとは、社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組

## 自然環境が有する多様な機能



植物の蒸発散機能を通じた  
気温上昇の抑制



雨水の貯留・浸透による  
防災・減災



水源涵養



生物の生息・生育の  
場の提供



水質浄化



農作物の  
生産



良好な  
景観形成



土壌の  
創出・保全

# グリーンインフラがもたらす多面的な効果

従来から自然環境が持つ機能を活用し、防災・減災、地域振興、環境保全に取り組んできた

## グリーンインフラで憩う



オープンスペースを活用した健康イベント(東京都立川市)

コロナ禍を契機として、**自然豊かなゆとりある環境で健康に暮らすことのできる生活空間の形成**が一層求められている

## グリーンインフラでつなぐ



地域住民による緑地の維持管理(新潟県見附市)

グリーンインフラは、植物の生育など時間とともに機能を発揮。**地域住民が計画から維持管理まで参画**できる取組

令和元年東日本台風時に、公園と一体となった遊水地が鶴見川の水を貯留し災害を防止するなど、**気候変動に伴う災害の激甚・頻発化への対応**に貢献

## グリーンインフラで守る



鶴見川多目的遊水地(神奈川県横浜市)

**SDGs、ESG投資**への関心が高まる中、人材や民間投資を呼び込む**イノベーティブで魅力的な都市空間の形成**に貢献

## グリーンインフラで呼び込む



緑や水が豊かなオフィス空間の形成(東京都千代田区)

**グリーンインフラの活用により、防災・減災、国土強靱化、新たな生活様式、SDGsに貢献する持続可能で魅力ある社会の実現を目指す**

## I 雨水貯留・浸透等による気候変動・防災・減災に関するプロジェクト



歩道の透水性・保水性舗装、植樹ます



グランモール公園  
(横浜市)

雨水を一時的に貯めてゆっくり地中へ浸透させ、水質浄化や修景機能も併せ持つ「雨庭」



四条堀川交差点  
(京都市)

## II 戦略的な緑・水の活用による豊かな生活空間の形成に関するプロジェクト



琵琶湖と市街地を結ぶ緑軸として公園を整備



草津川跡地公園  
(滋賀県草津市)

地域住民による緑地の管理



みつけイングリッシュガーデン  
(新潟県見附市)

## III 官民連携等による投資や人材を呼び込む都市空間の形成に関するプロジェクト



自然環境と調和したオフィス空間の形成



二子玉川ライズ  
(東京都世田谷区)

廃線高架橋における公園緑地整備による不動産投資の活性化



ハイレイン  
(米国ニューヨーク州)

## IV 豊かな自然環境・景観・生態系の保全による地域振興に関するプロジェクト



生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川環境を保全・創出する多自然川づくり



鶴見川水系梅田川  
(神奈川県)

山間の荒廃した水田をビオトープや環境教育の場として活用



立梅用水土地改良区  
(三重県多気町)

## グリーンインフラの経緯

- 1990年 後半～
  - ▶ 欧米において取組みが先行
    - 米国（ポートランド等）：都市の緑化等による雨水管理、越流軽減、水質の浄化等
    - 欧州：生物多様性の保全、気候変動対策等
- 2015年
  - ▶ 国土形成計画（2015年8月閣議決定）において、「グリーンインフラ」という言葉が初めて政府文書で使われるその後、社会資本整備重点計画（9月閣議決定）等、様々な政府の計画でグリーンインフラを位置づけ
- 2018年
  - ▶ **グリーンインフラ懇談会**（座長：筑波大学石田東生教授）を設置（12月）、グリーンインフラの推進に向けた議論を本格的に開始
- 2019年
  - ▶ 経済財政運営と改革の基本方針（6月閣議決定）、未来投資戦略2019（6月閣議決定）、国土強靱化年次計画2019（6月国土強靱化推進本部決定）等においても、グリーンインフラを位置づけ ⇒ **「グリーンインフラ推進戦略」公表（7月）**
- 2020年
  - ▶ 多様な主体の積極的な参画・官民連携を目的に、**「グリーンインフラ官民連携プラットフォーム」設立（3月）**

## グリーンインフラ推進戦略（R元.7）

### ◆グリーンインフラが求められる社会的・経済的背景

- (1) 気候変動への対応
- (2) グローバル社会での都市の発展
- (3) SDGs(持続可能な開発目標)、ESG投資等との親和性
- (4) 人口減少社会での土地利用の変化への対応
- (5) 既存ストックの維持管理
- (6) 自然と共生する社会の実現
- (7) 歴史、生活、文化等に根ざした環境・社会・経済の基盤

### ◆グリーンインフラの特徴と意義

- (1) 機能の多様性
- (2) 多様な主体の参画
- (3) 時間の経過とともにその機能を発揮する(「成長する」又は「育てる」インフラ)

### ◆グリーンインフラの活用を推進すべき場面

- (1) 気候変動への対応
- (2) 投資や人材を呼び込む都市空間の形成
- (3) 自然環境と調和したオフィス空間等の形成
- (4) 持続可能な国土利用・管理
- (5) 人口減少等に伴う低未利用地の利活用と地方創生
- (6) 都市空間の快適な利活用
- (7) 生態系ネットワークの形成
- (8) 豊かな生活空間の形成

### ◆グリーンインフラを推進するための方策

**基本方針：多様な主体の幅広い連携のもとに行うグリーンインフラの取組を社会資本整備や土地利用等を進める際の検討プロセスにビルトイン**

#### (1) グリーンインフラ主流化のための環境整備

- ① グリーンインフラ官民連携プラットフォームの創設
- ② 相談窓口の設置等
- ③ 各種法定計画への位置づけ
- ④ 都市計画に係る運用方針等の見直し
- ⑤ 技術指針の策定と要素技術の研究開発
- ⑥ 土木設計におけるGIへの配慮
- ⑦ 各主体の役割分担及び費用負担について整理

#### (2) グリーンインフラ推進のための支援の充実

- ① モデル事業の実施と優良事例の横展開
- ② 計画策定等に関する新たな支援制度
- ③ 緑の総合的な支援制度
- ④ GIを活用した雨水貯留浸透対策の推進
- ⑤ 交付金等による重点的支援の実施
- ⑥ 民間の取組に対するファイナンス支援の実施
- ⑦ ファイナンス確保に関する事例集の作成

#### (3) グリーンインフラに関する評価手法の開発等

- 国土交通省において、産学官の多様な主体が参画し、グリーンインフラに関する様々なノウハウ・技術等を持ち寄る場として、「グリーンインフラ官民連携プラットフォーム」を令和2年3月に設立。
- 「企画・広報部会」、「技術部会」、「金融部会」を設置し、グリーンインフラの社会的な普及、活用技術やその効果評価等に関する調査・研究、資金調達手法等の検討を進め、グリーンインフラの社会実装を推進。

## グリーンインフラ官民連携プラットフォーム (R2.3設立)

### 会員

都道府県  
市区町村

関係府省庁

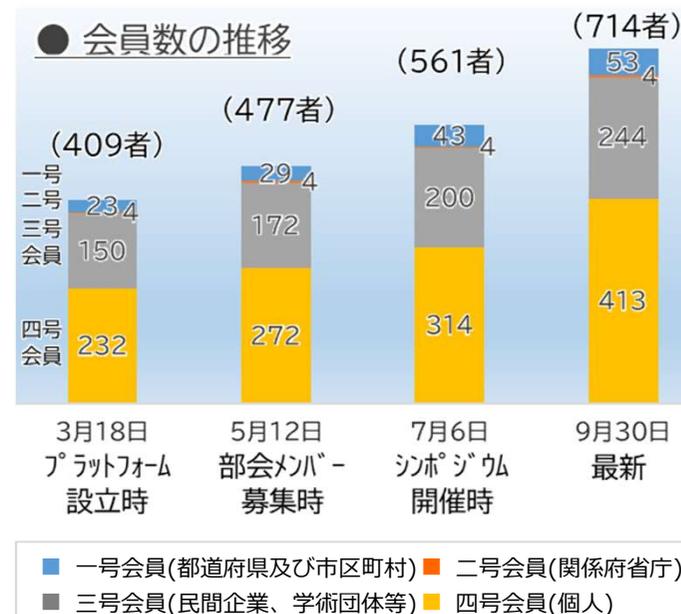
民間企業  
学術団体等

個人

### 役員・運営委員

- 【会長】二宮 雅也 (経団連自然保護協議会 会長)  
 【会長代理】涌井 史郎 (東京都市大学 環境学部 特別教授)  
 【運営委員】○: 委員長
- 石田 東生 (筑波大学 名誉教授)
  - ・伊藤 幸男 (一般社団法人 日本造園建設業協会 技術委員長)
  - ・今井 稔 (一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 インフラストラクチャー研究所 研究部長)
  - ・屋井 裕幸 (公益社団法人 雨水貯留浸透技術協会 常務理事)
  - ・河岸 茂樹 (横浜市 環境創造局 みどりアップ推進部長)
  - ・北栄 階一 (株式会社日本政策投資銀行 地域企画部 課長)
  - ・久津輪 太 (一般社団法人不動産協会 事務局長代理)
  - ・島多 義彦 (一般社団法人日本建設業連合会 土木工事技術委員会 環境技術部会 委員)
  - ・中村 圭吾 (国立研究開発法人 土木研究所 水環境研究グループ 上席研究員、自然共生研究センター長)
  - ・西田 貴明 (京都産業大学 生命科学部 准教授)
  - ・福岡 孝則 (東京農業大学 地域環境科学部 准教授)
  - ・増田 成玄 (独立行政法人都市再生機構 都市再生部 事業企画室 担当課長)
  - ・松家 新治 (国土交通省 総合政策局 環境政策課)
  - ・眞鍋 政彦 (株式会社日経 B P 日経クロステック編集部 副編集長)

### ● 会員数の推移



### 活動内容

#### 企画・広報部会

##### GIの社会的な普及

- 情報発信・意見交換の場の仕組みの構築
- アドバイザー制度の構築
- GI大賞(表彰制度)の創設

#### 技術部会

##### GI技術の調査・研究

- GIに関する要素技術の収集と技術研究
- GIに関する効果、計測手法に関する研究
- 評価手法の開発

#### 金融部会

##### GIの資金調達の検討

- 金融制度、グリーンボンド、クラウドファンディング等の紹介
- GIへの投資の促進
- 経済効果の把握

### ※会員申込みはこちらから

グリーンインフラ官民連携プラットフォームWEBサイト  
<https://gi-platform.com/>



## アドバイザー制度

グリーンインフラに関する質問や取組推進のためのポイント等について、アドバイザーに相談できます！

メール等での質問は基本的に無料※です。

※現地派遣などが必要な場合、現地派遣費用や日当などは依頼者負担となります。

※業務として検討すべき事項、多くの時間とコストを要する事項は、相談の対象外となります。



## グリーンインフラ大賞

グリーンインフラに関する優れた取組事例を表彰し、全国に広く発信します！

### 【4つの表彰部門】

#### 防災・減災部門



雨水貯留・浸透機能をもつ  
気候変動適応広場  
(デンマーク コペンハーゲン)

#### 生活空間部門



地域住民による公園・湿地の管理  
(イギリス ロンドン)

#### 都市空間部門



廃線高架橋における公園整備  
(アメリカ ニューヨーク)

#### 生態系保全部門



公園と河川の一体整備による  
豊かな生態系をもつ湿地再生  
(イギリス ロンドン)

## オンラインセミナー

グリーンインフラの有識者が開催するセミナーをオンラインで視聴できます！（毎月開催予定）

【第1回】9月24日（木）

横浜市におけるグリーンインフラの活用事例

【第2回】9月28日（月）

グリーンインフラと里山

【第3回】10月22日（木）

URにおけるグリーンインフラの取組

※先着100名予定（要予約）

※セミナーの様子はLIVE配信後、録画映像をプラットフォームWEBサイト(会員専用)ページで配信



## 会員専用サイト

グリーンインフラに関する様々な情報を閲覧・活用できます！

【会員が閲覧可能なコンテンツ例】

- 第1回シンポジウム（R2.6-7WEB開催）  
有識者によるパネルディスカッション、座談会の動画等を掲載
- グリフラ便り  
最新情報を毎月お届け
- 関連情報  
会員の取組、刊行物等を掲載

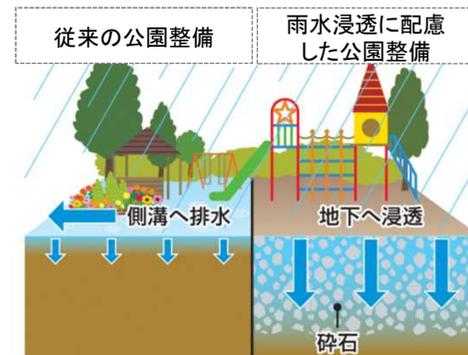


◆ 今後、上記以外にもグリーンインフラの取組を加速するための支援・イベント等を企画・実施予定

## グリーンインフラ技術の収集・紹介

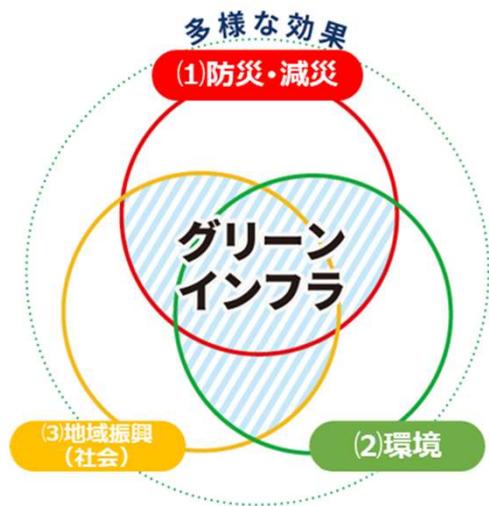
- 会員からグリーンインフラに関する各種技術や活用事例等を収集
  - ・グリーンインフラ大賞募集と併せて情報募集
- グリーンインフラ技術集やグリーンインフラ導入ガイドラインのとりまとめに向けた意見・情報交換

(例) 雨水貯留・浸透技術



## 効果評価手法等の検討

- グリーンインフラ技術導入の多様な効果の把握、評価手法について、国内外の事例を参考に検討



### (1) 防災・減災

主な機能(効果)

- 雨水貯留・浸透
- 延焼防止
- 津波抑制

【指標と評価手法(例)】

- [指標] 雨水や越流水の貯留量・浸透量 等
- [評価手法] 浸水家屋数減少シミュレーションと経済損失回避額

### (2) 環境

主な機能(効果)

- CO2の削減
- 気候変動への適応
- 生物多様性の創出

【指標と評価手法(例)】

- [指標] CO2の吸収量、人工被覆面積 等
- [評価手法] 人工被覆面の減少による地表面温度・気温の上昇抑制率

### (3) 地域振興(社会)

主な機能(効果)

- レクリエーション機会増大
- 地域経済の活性化
- 健康増進

【指標と評価手法(例)】

- [指標] レクリエーション機会の数、地価の上昇 等
- [評価手法] 地価の上昇、新たな投資促進による地域経済波及額 等

## 先導的グリーンインフラモデル形成支援 【総合政策局】

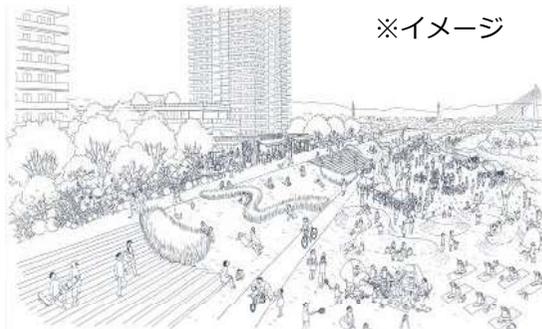
グリーンインフラに取り組む地方公共団体を対象に専門家を派遣し、基本構想の策定や事業化に向けたアドバイス等の支援を行い、先導的グリーンインフラモデルを形成し、取組を加速

- R2支援対象
- 区分①** 雨水の貯留・浸透や屋外空間を生かした防災・減災、気候変動への対応
  - 区分②** 低未利用地等の活用による、豊かな自然環境・景観の保全、生態系ネットワークの形成

【支援内容】  
①基本構想の策定  
②事業化に向けたアドバイス

【支援方法】  
コンサル・専門家を派遣し支援

### 【区分①】東京都多摩市



※イメージ

聖蹟桜ヶ丘駅北側エリアで、ハード(緑化、雨水の貯留・浸透施設の整備等)、ソフト(河川空間の利活用に向けた社会実験等)の両面から一体的なグリーンインフラを導入し、居心地が良く、防災と環境を両立したまちづくりを推進

ハード・ソフトが一体となった、防災と環境を両立するまちづくり

### 【区分②】大阪府泉大津市



※イメージ

市民会館等跡地における公園整備を中心に、周辺の道路・臨海部の緑地空間と連携したみどりのネットワークや新たな交流拠点を形成し、泉大津駅西地区の活性化や人々が心身共に健康で快適に生活できる空間の形成を推進

市民会館等跡地を中心としたみどりのネットワークの形成

## グリーンインフラ活用型都市構築支援事業 【都市局】

官民連携・分野横断による戦略的な緑や水のネットワーク形成を行い、都市型水害対策や都市の快適性・生産性向上等を推進するグリーンインフラの支援事業を創設 〈整備イメージ〉

### 〈事業スキーム〉

- 自治体において緑の基本計画等に基づく目標を設定し、目標達成に必要なグリーンインフラの導入計画を策定
- グリーンインフラの導入計画に基づく官民連携の取組をハード・ソフト両面から支援



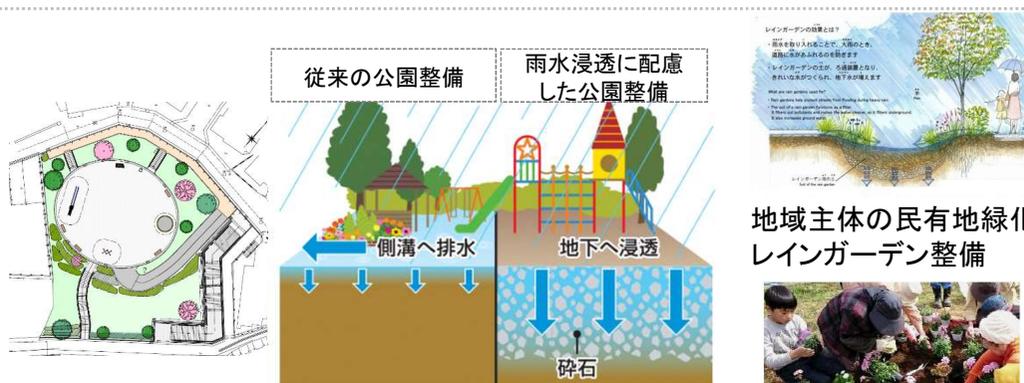
雨水を貯留しやすい土壌を使用したレインガーデンを整備



民間と公共空間の一体的な緑化による快適性の向上

### 【事例】神奈川県横浜市

横浜市では「水と緑の基本計画」に基づき、流域単位でグリーンインフラの導入を計画。ゲリラ豪雨等による浸水被害の抑制や、地域コミュニティの維持等が課題となっている流域などにおいて、都市公園の整備や民間事業における緑地創出を推進。



雨水浸透や緑陰形成等に配慮した公園整備

地域主体の民有地緑化・レインガーデン整備



地域コミュニティの形成

### 目標

- 下水道施設への負荷軽減に資する公園緑地等の整備面積の増加
- 多様な主体の参画によるグリーンインフラの創出・育成
- グリーンインフラの創出・育成による微気象の緩和

# グリーンインフラの取組事例



- 横浜市では、SDGs未来都市計画をはじめ、中期4か年計画、環境管理計画、水と緑の基本計画、下水道中期経営計画等の各種計画に基づき、分野横断によるグリーンインフラの活用を総合的に推進
- グランモール公園(2018年再整備)は、浸透側溝や保水性舗装、植栽地等から地中に浸透させた雨水を雨水貯留砕石に保水させることにより、樹木や保水性舗装からの蒸発散による微気象の緩和、樹木の良好な育成、緑陰の形成を促し、憩い・賑わい空間の形成、暑熱緩和対策、浸水対策等の機能を発揮
- 公園の新設や更新の機会に合わせたレインガーデンや、浸水対策・水循環の再生を目的とした雨水浸透ますの設置、農地の保水・生産機能を高めるための基盤整備等にも取り組み、流域全体における雨水の貯留浸透機能の向上を図ることで、気候変動に適応した減災の取組を推進

## 流域全体での雨水貯留浸透機能の活用 (神奈川県横浜市)



広場や園路を改良し、周辺の雨水を集めるレインガーデンを整備することで保水・浸透機能の向上と植栽の良好な育成を図る



農地での作業状況  
畑の土を深く耕すことにより、保水・浸透機能と生産性を高める試験的な取組



側溝・保水性舗装から入った雨水は、雨水貯留浸透基盤により地表までしみ上がり、蒸発散作用により気温の低減効果が発揮

- ・「雨庭」は、地上に降った雨水を下水道に直接放流することなく一時的に貯留し、ゆっくり地中に浸透させる構造を持った植栽空間であり、雨水流出抑制に加え、水質浄化、修景・緑化、ヒートアイランド現象の緩和などの効果が期待できる
- ・京都市では、四条堀川交差点において、平成29年度から雨庭を導入し、令和2年7月時点で合計3つの雨庭を整備済み
- ・街路樹とその周辺部の美化や緑化に取り組んでもらう「京都市街路樹サポーター制度」(154団体、2,583名：令和2年3月末時点)も活用し、この雨庭における日常の水やり、除草作業などは、地元自治会や企業等がボランティアで実施

## 雨庭（京都府京都市）



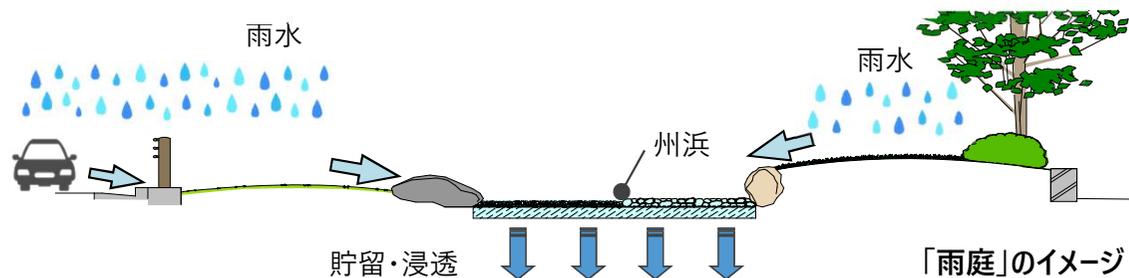
四条堀川交差点の北西角に、「雨庭」を整備



地上に降った雨水を、下水道に直接放流することなく一時的に貯留し、ゆっくり地中に浸透させる構造を持った植栽空間であり、修景・緑化に加え、雨水流出抑制、水質浄化、ヒートアイランド現象の緩和などの効果が期待される

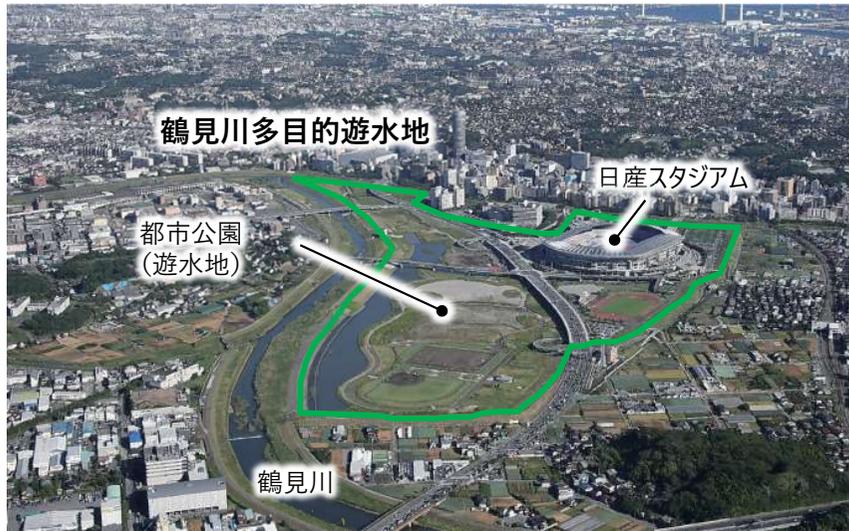


「雨庭」を構成する主な植栽・景石



- ・鶴見川流域では、急激な都市化に伴い流域の保水・浸透機能が低下し、水害が頻発するようになった
- ・国と横浜市が連携し、周辺地域を水害の危険から守るために、スタジアムや芝生広場を有する都市公園等と一体となった遊水地を整備  
平常時は都市の憩いの空間や多様な生物の生息場として機能し、豪雨時には防災・減災に寄与
- ・令和元年東日本台風の際には、鶴見川の水を一時的に貯留することで周辺地域での災害発生を防止

## 鶴見川多目的遊水地（神奈川県横浜市）



令和元年東日本台風時には、約94万m<sup>3</sup>の河川水を貯留し、災害発生防止に寄与



平常時はスポーツや環境教育イベントの場として活用されると共に、多様な生物の生息場としても機能



約94万m<sup>3</sup>を貯留した鶴見川多目的遊水地



- ・三鷹市と都市再生機構が連携し、移転した青果市場の跡地を中心に用地を取得し、防災公園を整備
- ・公園には広大な芝生広場や遊具、市民花壇を備えるとともに、公園地下にはアリーナや屋内プール等を有する総合スポーツセンターを整備し、市民の憩いの空間を形成する一方で、災害時には災害対策本部や支援物資のストックヤード等として活用
- ・隣接するごみ処理施設から、ごみ焼却による電力や温水の供給を受けるとともに、公園と連続した建物外壁や屋上の豊かな緑を活用することで、省エネ・環境負荷低減を実現

## 三鷹中央防災公園（東京都三鷹市）



災害時の  
機能転換

災害対策本部の設置のほか、一時避難場所となる広場、防火樹林、災害用トイレ・井戸、備蓄倉庫等により地域の防災機能向上に寄与



- ・「5本の樹」計画とは、地域の在来樹種を庭づくりに生かす積水ハウス独自の生態系に配慮した庭づくり・まちづくりで、住まいの庭に小さな「里山」をつくることで、地域の自然をつなぎ、失われつつある生態系ネットワークを維持・復活させることが目的
- ・豊かな緑は成長して住宅や街を美しく彩り、景観美の優れた街は経済的にも資産価値を維持
- ・樹木図鑑の発刊やサイトの公開を通して普及に努めており、2001年の事業開始以降の植栽本数は累計1611万本

## 「5本の樹」計画（積水ハウス株式会社）



“3本は鳥のために、2本は蝶のために”という思いが込められており、昔から馴染みの深い日本の原種や自生種、在来種にこだわり、全国の地域の気候に合わせて厳選



1989年にまちびらきした「シーサイドももち」と、より駅に近い隣接エリアの基準地価格を比較すると、1998年時点では㎡あたり5.6万円の差があったが、2008年以降は駅に近い隣接エリアを上回る価格で推移



体験思考型環境教育プログラムの実施



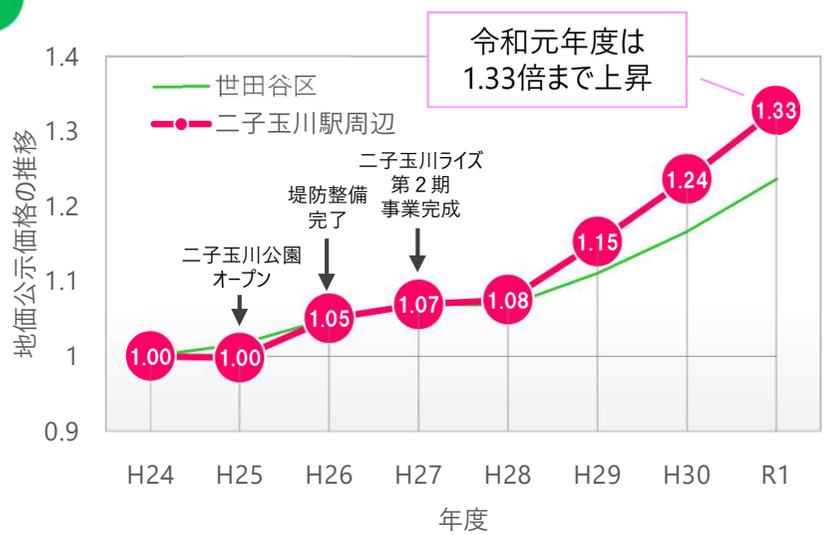
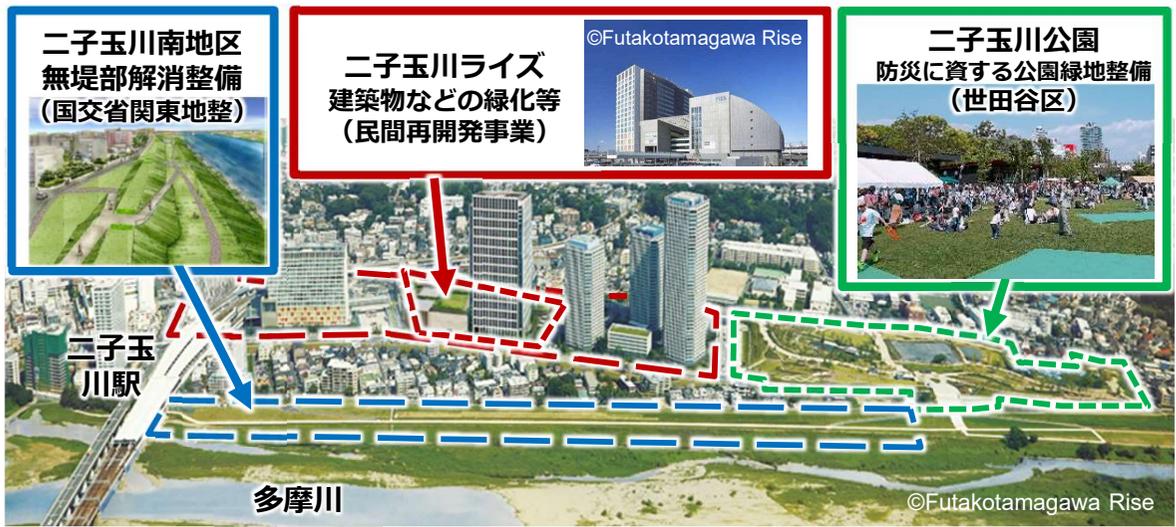
樹木図鑑やサイトによる普及



# Ⅲ.官民連携等による投資や人材を呼び込む都市空間の形成に関するプロジェクト

- ・「二子玉川ライズ」では、屋上庭園、みどりの広場、遊歩道等の整備により、積極的に自然環境を創出し、平成27年度の第2期事業完成以降、豊かな自然と調和した都心にはない魅力をもった街として人気を集め、来街者が飛躍的に増加
- ・「二子玉川ライズ」の成功により、二子玉川駅の利用者数はここ10年で約30%増加し、駅周辺の地価公示価格(平均値)も令和元年度は平成24年度の約1.33倍まで上昇しており、自然環境を活用した投資や人材の呼び込みによる不動産価値の向上が確認

## 二子玉川ライズ、二子玉川公園、二子玉川南地区堤防(東京都世田谷区)



※国土交通省発表の公的な地価を用いて、国土交通省が作成  
 ※地価公示価格は地点の平均値とし、世田谷区、二子玉川駅周辺の推移は平成23年の地価公示価格を基準にそれぞれ算出した値



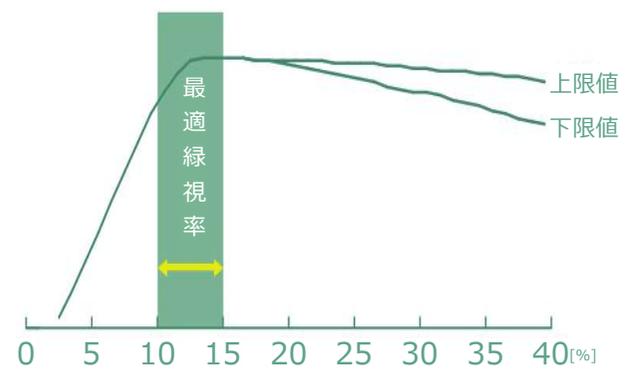
出典：東急不動産HP、東急リバブルHP、緑による建物の魅力アップガイド(国土交通省都市局公園緑地・景観課)、世田谷区HP(二子多摩川公園)

# Ⅲ.官民連携等による投資や人材を呼び込む都市空間の形成に関するプロジェクト

・バイオフィリックデザインとは、「人間には“自然とつながりたい”という本能的欲求がある」という概念を反映した空間デザインの手法をオフィスなどに応用することにより、従業員の「幸福度の向上」、「生産性の向上」、「創造性の向上」を図るもの  
 ・バイオフィリックデザインにより緑視率を高めることで、心理的リラックス効果が得られ、ストレスの軽減効果が認められている

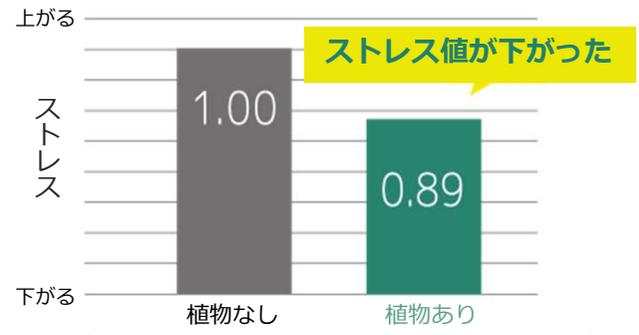
## バイオフィリックデザイン

■ 緑視率グラフ



提供：パナソニック ビジネスサービス株式会社HP

■ 植物あり、なしのストレス軽減効果



※ 日本テレポート（株）にて2016年10月～2017年3月の期間において実施された実証実験に基づく。  
 同社が開発したアルゴリズムを用いてストレス値を算出し、植物を設置していなかった期間の被験者のストレスの平均値を1に基準化し、ストレス軽減効果が確認された植物を設置した期間のものと比較。  
 提供：パナソニック ビジネスサービス株式会社HP

緑視率とストレスの関係をエビデンス化・見える化で健康経営を促進する、バイオフィリックデザインソリューション



出典：ヤンマーHP

・南側の壁は、高さ50m、面積約1,230m<sup>2</sup>の壁面緑化で、大気汚染物質の吸着や夏場にビル内の温度上昇を軽減するグリーンカーテンの役目を果たす  
 ・貯めた雨水を使い、自動で水やりが行われる



出典：ヤンマーHP

・社員食堂内中央に位置する屋上庭園。養蜂場があり、ミツバチの世話はNPO法人・梅田ミツバチプロジェクトが実施  
 ・採取されたハチミツは、カフェのメニューにも使用

- ・渡良瀬遊水地は、栃木、群馬、埼玉、茨城にまたがる日本最大級の遊水地で、洪水調節や生活用水の補給といった役割を担っている
- ・渡良瀬遊水地内には数多くの動植物が生息・生育し、2012年7月にはラムサール条約湿地(国際的に重要な湿地)に登録
- ・遊水地を核に、コウノトリやトキをシンボルとして地域振興を進めている市町村が多く存在し、例えば、栃木県小山市では、地域の活性化を図るため、「トキ・コウノトリの野生復帰」や「環境にやさしい農業を中心とした地場産業の推進」等の取り組みを実施
- ・2015年には「渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク推進協議会」が設立され、多様な主体が協働・連携し、多様な生物の生息可能な自然環境の保全・再生方策を推進し、賑わいのある地域振興・経済活性化方策に取り組んでいる
- ・2020年6月には渡良瀬遊水地内でコウノトリのペアからヒナが誕生し、東日本では1800年代後半以来初の誕生といわれている

**渡良瀬遊水地 (栃木県小山市等)**



東京から60km圏内に位置



平常時



洪水時

洪水時に遊水地内へ最大約1.7億m<sup>3</sup>を貯留し下流に流れる水量を低減



■ 渡良瀬貯水池に関わる供給範囲  
渡良瀬貯水池の水は首都圏の生活用水として供給



3,300haに及ぶ広大な湿地に希少な植物も生息



遊水地内の人工巣塔で、コウノトリのヒナが確認  
写真:わたらせ未来基金 青木章彦氏



環境にやさしい農業を推進し、特産品をブランド化・販売

出典：国土交通省作成資料、渡良瀬遊水地で東日本初のコウノトリのヒナが誕生（2020年6月23日 国土交通省関東地方整備局 プレスリリース）

- ・三重県多気町は、山、川、水田、ため池など豊かな自然環境を有する町であり、人口は14,451人(2020年6月時点)
- ・立梅用水土地改良区周辺では、地域住民の発案により1993年からあじさいの植栽活動を開始するとともに、山間の放棄水田を利用した農村ビオトープの整備、それらを利用した教育活動等を実施
- ・1997年から開催している「あじさいまつり」には、毎年町内外から、12,000人余りが参加し、豊かな自然環境・景観の保全により、観光振興や地域の活性化に貢献

## 立梅用水土地改良区 (三重県多気郡多気町)



(出典)地理院地図



自然豊かな山間地に位置する多気町



地域のボランティアや農家組織の連携によるあじさいの植栽



山間の放棄水田を活用したビオトープ形成



あじさいまつり来場者数: 12,000人余り

立梅用水ボートくだり



綱引大会